

奈弓連だより

通巻 226号

令和2年12月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 山本悦子
連絡先: henshu@narakyudo.jp

第293回臨時地連審査

初段2名 弐段4名 参段11名 四段5名が合格

12月6日(日)ならでん弓道場において、審査会が開催されました。今回は大学生及び支部に所属する一般会員を対象に、級位及び初段から四段までの審査が行われました。前回同様コロナ対策も徹底され、密を避けるよう受付時間も分けました。また、奈良県は四段から和服着用での審査を行っていましたが、全弓連からの通達に則り、弓道衣で行射審査を行いました。

審査結果は次の通りです。

級位 受審者10名 合格10名
(1級9名 2級1名)

初段 受審者3名 合格2名

弐段 受審者8名 合格4名

参段 受審者26名 合格11名

四段 受審者28名 欠席1名 合格5名

また、同日行われました第3回ビデオ審査の結果は次の通りです。

級位 受審者8名 合格8名
(1級4名 2級4名)

初段 受審者6名 合格6名

弐段 受審者1名 合格1名

(審査部 松村由喜子)

第38回奈良女子弓道大会

人数を絞って開催

11月23日、天候に恵まれ、ならでん(奈良市)弓道場で奈良女子弓道大会を開催しました。12チーム36名が参加。新型コロナ対策のため、奈良市協会員のみに人数を絞っての開催となりましたが、「優雅のうちに、容姿凛然たること」を目指した熱戦を繰り広げるとともに、競技運営を実践で学ぶ機会となりました。参加者全員に、感染防止と運営に協力いただいたおかげで無事終えることができました。

矢数は各自4射ずつ3回(1チーム36射)に変更して行い、団体戦では19中のFチームが優勝、個人戦で

昇段おめでとうございます

ならでん(奈良市)弓道場で12月6日に開催されました奈良県臨時地連審査会において

竹内 洋さん(郡山)

脇阪 佳工さん(蒼穹会)

山崎 太成さん(五條)

尾沢 茂さん(奈良)

今西 達也さん(五條)が

四段に昇段されました。

おめでとうございます。

(事務局)

は参段以上の部5名が決勝に進み、凌ぎを削りました。

結果は次の通りです。

団体

1位 Fチーム(片山智子、栄島なるみ、西田ゆり)

2位 Lチーム(丹波隆代、高倉美香、深田紀美子)

3位 Aチーム(高柳詩子、加藤敬子、岡本ハツ子)

個人

弐段以下の部

1位 杉本幸子 2位 平林里衣 3位 横井千世

参段以上の部

1位 高倉美香 2位 西田ゆり 3位 栄島なるみ





熱戦を繰り広げる各チーム

(奈良市弓道協会 高倉美香)

第46回奈良県中学校弓道新人大会

団体 男子 青翔中学校Aチーム、女子 橿原中学校Bチームが優勝

11月15日(日)ならでん弓道場において表題の大会が行われました。近的 団体競技(女子の部・男子の部) 個人競技(女子2年生の部・1年生の部、男子2年生の部・1年生の部)

団体予選は1チーム12射(各自4射)を行い、的中数で3位までを予選通過。予選通過チームは再度12射(各自4射)を行い、予選との合計的中数で順位を決定しました。個人予選は各自4射を行い、2中以上で予選通過。射詰競技にて順位を決定し、通過者が3名に満たなかったため当該順位は「該当者なし」となりました。

コロナ渦の中であったため今年度初めての県大会でした。天気も良く弓道の大会には絶好の日和でした。参加人数は、男子40名、女子54名でした。

結果は以下の通りです。

個人戦

男子

優勝 伊東 響(橿原)

2位 広瀬 晴臣(白檀)

3位 塚島 悠稀(八木)

女子

優勝 池下 琴音(橿原)

2位 坂本 優奈(橿原)

3位 中島 里桜(八木)

1年生個人の部

男子

優勝 片石 悠太郎(橿原) 以下該当者なし



個人戦の入賞者前列右から2年女子1位～3位、1年男子1位、2年男子1位～3位

団体戦

男子

優勝 青翔A(田中 加護 川下)

2位 大成A(高橋 大神 松室)

3位 橿原B(花瀬 伊東 山根)



男子団体の入賞者

前列1位 後列右2位 後列左3位

女子

優勝 橿原B(池下 半田 石倉)

2位 橿原A(坂本 中村 藪内)

3位 香芝B(清原 勝村 西口)



女子団体の入賞者

前列1位 後列右2位 後列左3位

試合でのコロナ対策ですが、まず中体連で手の消毒スプレーを5本と非接触型の体温計を準備しました。また、スプレーは1本ずつ各学校からも準備してくれました。それから各学校に事前に協力書を配ってお

き参加する選手、引率教員に試合当日提出してもらいました。試合当日においては集合する前（碟をつける前）に両手を消毒させました。矢取りも選手が交代でしますので矢取りの前に消毒、矢拭きしたあとも消毒を徹底させました。また、控で熱を測りました。

応援については、試合は無観客で行い、矢が的に中っても応援の声を出さない。その代わりに拍手することとしました。

(中体連 中前芳一)

1月の行事予定

1/4 (月) 大和神社弓始式

1/10 (日) 新年射初会 (ならでん弓道場)

1/30 (土) 奈良県大的大会 (樫原公苑遠的場)

奈良県の支部、団体紹介

関西電力支部

長濱正伸

関西電力支部は、原則、関西電力株式会社の奈良県在住の社員と奈良県内で勤務する社員で構成しています。元々、関西電力弓道部(近畿6府県、福井県、東海、北陸地方の社員で構成)として活動しており、弓の修練と電気事業弓道大会(全国の電力会社が集う大会)や全日本実業団大会での入賞を目指して活動していました。

その中、シャープ弓道部の工藤先生から関西電力も勤労者大会に出ないかとのお誘いがありました。その



頃から勤労者大会が5人の団体戦から3人の団体戦に変更になったこともあり、奈良県の関西電力弓道部のメンバーで参加することが可能となり、平成23年に奈良県連にて関西電力支部を発足することとなりました。発足後は、4度、奈良県代表として全日本勤労者弓道選手権大会に出場させていただきました。

- ・第59回全日本勤労者弓道選手権大会
(平成24年度 東京都小金井市)
- ・第61回全日本勤労者弓道選手権大会
(平成26年度 和歌山県田辺市)
- ・第63回全日本勤労者弓道選手権大会
(平成28年度 愛媛県松山市)
- ・第64回全日本勤労者弓道選手権大会
(平成29年度 福井県敦賀市)

いずれも1次予選敗退という結果でしたが、次年度に国体が開催される会場での大会に参加することができ、良い経験をさせていただきました。



第59回大会で関西電力福井県チームと

日々の活動は、関西電力弓道部として活動しており、箕面市にある関西電力研修センターの体育館にて練習しています。また、年に1回、福井県小浜市にて弓道合宿を行い弓の修練とともに福井の美味しい食べ物を満喫しております。

弓道をする社員も少なく、存続の危機を感じている状況ではありますが、存続させるべく努力していこうと思います。隠れ関西電力社員の弓引きがおられましたら「長濱」までご連絡ください。これからも、よろしく願いいたします。

歳時記

「一月」 お供え

お供えはお餅に限らず、神に捧げる神饌、すべてお供えです。節の日(二十四節ある)や祭の日に海の幸、山の幸を神に捧げ、その後、親戚一同で会食しました。これが節の料理、晴れの饗です。お節料理は正月料理の代名詞の様になっていますが、おはぎもぼたもちも節のものです。ことに正月の節料理は保存食であり栄養食でもあります。正月の三日間は骨休みをして保存食で過ごすのも、生活の知恵であったと思われます。



門前に門松を飾りしめなわを張った伝承は正月の清めの心として一年の門出を象徴したものです。このような風習は残したいもので、細い竹筒に小松と梅を生けただけの松竹梅もゆかしいものです。

以上で一年間の主な年間行事を記しました。忘れかけている日本の心を思い返していただければ、幸いです。

「小笠原流マナー」 著者小笠原清信
グラフ社発行より 中埜狛大学藤原孝澄(中埜広樹)
(2008年12月号に掲載された記事を再掲)

お詫びと訂正

11月号 第39回全国高等学校弓道選抜大会兼第28回近畿高等学校弓道選抜大会県予選の団体戦2次予選リーグの決勝戦の記載について誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

決勝戦

橿原 6中 2位 (誤)

奈良北 6中 2位 (正)

(高体連 澤 隆明)

編 | 集 | 後 | 記

新型コロナウイルスではじまった2020年が、もうすぐ終わります。年が過ぎるのと同時に、コロナも去ってほしいのですが、まだまだ感染者が増え続け、重症者も増える一方です。注意が甘くなっていないか、も

量る、測る、計る？



歩く速さは、速い方ですか？遅い方ですか？

丁度よい速さとは？

「歩く」という動作は、簡単なようでとても難しいものです。先生が手を叩いてくださる、そのリズムに合わせて、吸う息で1歩2歩、吐く息で3歩4歩と、歩く練習をしたものでした。審査や競技の時は、一息で二歩あるく、ということですね。そして、大前は入場で歩いた速さを退場まで同じに保つようにし、後ろの者はそれについていかないとなりません。この速さが遅いと、「お葬式の行列みたいだ」と言われたりしますが、速すぎると後ろの人が合わせにくくなります。さらに歩幅が大きくて速いと後ろの小さな人はついていけません。反対に小さい歩幅でゆっくり歩くと、大きな人は相当歩きにくいそうです。大前は責任重大ですね。

矢渡しの際は、射手は一息で一歩。介添えは一息三歩で歩き、歩幅は小さくして足数が多くなります。大腿で速く歩くと体が崩れやすくなります。踵をつけてすり足で歩く(体を崩さずに歩く)ということが弓道の基本ですので、自然に歩幅は小さくなるわけです。



さて、速さはどのくらいが丁度よいのか。

先生や弓友の立ちを見取り稽古して息合い・間合いを計りましょう。ビデオも良いですね。自分も一緒に呼吸を合わせるとわかりやすいです。審査では、テンポでいうと、♪60~70で歩行されていることが多いようです。5人立ちで10分が目安となります。

矢渡しでは、道場の広狭もありますが、入場から退場まで12~13分位がちょうど良く、13分を超えると少し遅いと感じるようです。

う一度見直してみようと思います。

審査、試合等では三密にならないような対策を工夫していただきました。ありがとうございます。体調に気をつけて、新しい年にまたお会いしましょう。

(編集担当 松澤和美)